平　成　２３　年　度

工事番号　橿文　第　２３－１号

奈良県橿原文化会館
舞台吊り物ワイヤーロープ改修工事（第2期）

奈良県橿原文化会館

図面目録

番　　号	図　　面　　名　　称	縮　　尺
1	図面目録 案内図・配置図・面積表	———— S＝NTS 1／1000
2	工事共通仕様書・特記仕様書	————
3	工事共通仕様書・特記仕様書	————
4	仕様書（別表1―1）	————
5	仕様書（別表1―２）	————
6	仕様書（別表２）	————
7	舞台吊物機構　仕様書（大ホール）	————
8	舞台吊物機構　断面図（大ホール）	S＝NTS
9	舞台吊物機構　平面図（大ホール）	S＝NTS
１０	舞台吊物機構　すのこ図（大ホール）	S＝NTS
１１	舞台吊物機構　オーケストラ迫りピット図	S＝NTS
１２	舞台吊物機構　仕様書（小ホール）	S＝NTS
１３	舞台吊物機構　断面図（小ホール）	S＝NTS
１４	舞台吊物機構　平面図（小ホール）	S＝NTS
１５	舞台吊物機構　すのこ図（小ホール）	S＝NTS

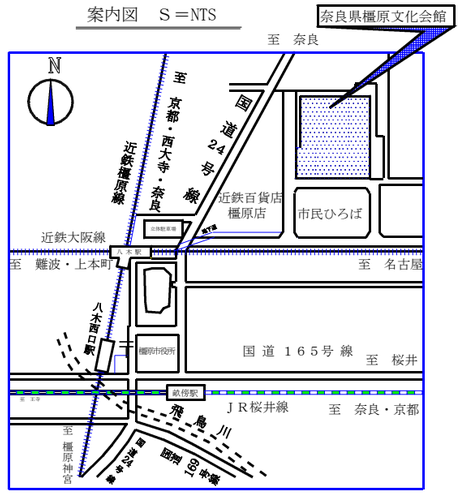
奈良県橿原文化会館

所在地　奈良県橿原市北八木町三丁目６５－５

ＴＥＬ　０７４４－２３－２７７１

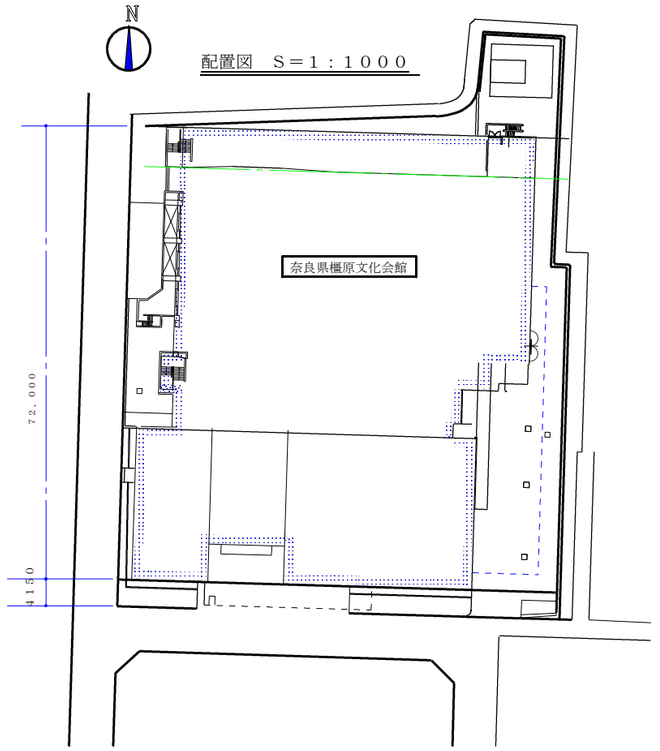
ＦＡＸ　０７４４－２５－６８０１

案内図　S＝NTS



面積表

敷地面積		５，５０２．００㎡
建築面積		４，３３３．８２㎡
床面積	Ｂ　階	１，５０３．８３㎡
	１　階	４，０９１．９２㎡
	２　階	２，２９７．５９㎡
	３　階	８５０．３７㎡
	ＰＨ階	１３８．８７㎡
	合　計	８，８８２．６２㎡



工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	図番
舞台吊り物ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ改修工事（第2期） 図面目録・案内図・配置図	S＝NTS						

機械設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

１．工事場所　橿原市北八木町３－６５－５

２．建物概要

建物名	構造	階数	延面積（m2）	備考
奈良県橿原文化会館	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	地下１階 地上３階	８，８８３	

３．工事種目　●印をつけたものを適用し、各一式とする。

工事項目／棟別及び屋外	国際ホール				屋外
空気調和設備	○	○	○	○	○
換気設備	○	○	○	○	○
排煙設備	○	○	○	○	○
自動制御設備	○	○	○	○	○
衛生器具設備	○	○	○	○	○
給水設備	○	○	○	○	○
排水設備	○	○	○	○	○
給湯設備	○	○	○	○	○
消火設備	○	○	○	○	○
ガス設備	○	○	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○	○	○
厨房機器設備	○	○	○	○	○
さく井設備	○	○	○	○	○
舞台吊り物設備	●	○	○	○	○
機械式駐車設備	○	○	○	○	○
井水揚水設備	○	○	○	○	○
医療ガス設備	○	○	○	○	○
撤去工事	●	○	○	○	○

Ⅱ．機械設備工事仕様

１．共通仕様

１）本仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）(以下「標準仕様書」という。)、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）(以下「改修標準仕様書」という。)及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）(以下「標準図」という。)による。

２）工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合は、その仕様は当該図面による。

２．特記仕様

１）項目及び特記事項は、●印のついたものを本工事に適用する。ただし●印のない場合は※印を適用する。

２）特記事項に記載の（　）内表示番号は標準仕様書の編・章・節・項を示す。また、〈　〉内の表示番号は改修標準仕様書の編・章・節・項を示す。

章	項目	特記事項
一般事項	●適用基準等	●土木部建築工事監督及検査必携　奈良県土木部 ●建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集　奈良県土木部 (1.1.1.1)〈1.1.1.1〉
	●設計図書の優先順位	（１）質問回答書（以下（２）から（５）に対するもの） （２）現場説明書 （３）特記仕様書 （４）図面 （５）標準仕様書・改修標準仕様書 以上（１）から（５）の順番のとおりとする。 ただし、明示なき材料、仕上げ等については、監督職員の指示による。
	●官公署その他への届出手続等	工事関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続き等は全て請負者が行うこと。この場合、「建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集（奈良県土木部）」の書式に従い、日程管理を行う。 (1.1.1.3)〈1.1.1.3〉
	●工事実績情報の登録	適用する。 (1.1.1.4)〈1.1.1.4〉
	●現場組織表	現場説明書による。 (1.1.1.5)
	○他工事との取合い	別記工事区分表による。 (1.1.1.7)〈1.1.1.7〉
	●疑義に対する協議等	設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取り合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じた時は、監督職員と協議する。 (1.1.1.8)〈1.1.1.8〉
	○概成工期	現場説明書による。 (1.1.2.1)〈1.1.2.1〉
	●総合施工計画書	工事の着手に先立ち、総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。 (1.1.2.2)〈1.1.2.2〉
	●電気保安技術者	適用する。工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 (1.1.3.2)〈1.1.3.2〉
	●施工条件	現場説明書による。 (1.1.3.3)〈1.1.3.3〉
	●施工中の安全確保	工事現場周辺の状況を調査判断し、本工事施工によって生じる騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。工事に関して、第三者から説明の要求又は苦情があった場合は、請負者の責任において直ちに誠意をもって対応する。 (1.1.3.5)〈1.1.3.5〉
	○交通安全管理	工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにするとと共に、工事関係車両の出入りについては、必ず誘導員又は交通整理員を立て、交通渋滞、住民等の安全に留意すること。また、工事着手前に警察、その他関係機関、地元自治会、監督職員などと十分打ち合わせのうえ、安全管理を行う。 (1.1.3.6)〈1.1.3.6〉
	○交通整理員	現場説明書による。
	●災害時の安全確保	災害及び事故が発生した場合は、人命の安全確保を優先するとともに、二次災害の防止に努め、その経緯を監督職員に報告する。 (1.1.3.7)〈1.1.3.8〉
	●施工中の環境保全等	関係法令に従い工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉塵、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。 (1.1.3.8)〈1.1.3.9〉
	●発生材の処理等	○引き渡しを要するもの　（　　）(1.1.3.9)〈1.5.1.1〉<1.5.1.2>　○特別管理産業廃棄物に関しては、「Ⅲ.機械設備解体工事仕様」を適用する。　○（　　）　○（　　）　○（　　）　○（　　）　○現場において再利用を図るもの　（　　）　○再生資源化を図るもの　○コンクリート塊　○アスファルトコンクリート塊　○建設発生木材　○再生資源利用（促進）計画（実施）書を提出する。（建設副産物対策近畿地方連絡協議会編）　●産業廃棄物の処理　関係法令に従い、構外搬出適切処理とし搬出書類等提出する。なお、県内の最終処分場に搬入することとなる場合は、奈良県産業廃棄物税条例相当額を支払うこと。　●産業廃棄物管理票（マニフェスト）を提出する。　○フロン類(冷媒及び消火ガス等)は、抜取回収後破壊処分を行い、証明書を提出する。　○特定家庭用機器再商品化法に該当するものは適法処理とする。　○ｺﾆｯﾄ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰ（ｳｲﾝﾄﾞｳ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰ又は室内ﾕﾆｯﾄが壁掛形もしくは床置き形であるもの（ﾚｰﾄ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰに限る。）
	○機材等	※別記(設備機材)に掲げる設備機材は、(社)公共建築協会発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」に記載されたもの（ただし、評価の有効期限内のものに限る）を使用する。この場合、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編1.4.2(c)の品質及び性能を有することの証明となる資料（製作図、試験成績書等は除く）に替える。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。　※本工事に使用する設備機材等のうち、設備機材等指定表等により特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等 ものを使用する。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	○建築材料・設備機器	※建物内部（天井裏、床下、ＰＳ、ＥＰＳ、ＤＳ等を含む）及びダクト等の内部に使用する下記に掲げる各材料・機材等は、それぞれに定められた基準等に適合するものを選定する。 (1.1.4.2)〈1.1.4.2〉

材料等	基準等
①接着剤	次の１、２及び３を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しているものであること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ３　トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないものであること。なお、可塑剤を使用している接着剤はフタル酸ジ-ｎ-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。
②保温材 緩衝材 断熱材	次の１、２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しているものであること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。
③塗料	次の１、２及び３を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しているものであること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ３　トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないものであること。
④設備機器	製品を構成する建築材料は、次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しているものであること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 (1.1.4.1)〈1.1.4.1〉

なお、Ｆ☆☆☆☆の規格に適合するものと規定された材料等で、Ｆ☆☆☆☆に適合する材料等がない場合は、監督員と協議を行うこと。

●機材の試験　機材の品質及び性能を試験により証明する場合は、試験に先立ち試験計画書を作成のうえ、監督職員に提出し、原則として監督職員の立ち会いを受けて行う。ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 (1.1.4.6)〈1.1.4.6〉

●色彩による表示及び指示　監督職員の指示による。 (1.1.4.2)(1.1.7.4)〈1.1.4.2〉<1.1.8.5>

○技能士　適用する。 (1.1.5.2)〈1.1.6.2〉　○１級配管技能士（配管工事）　○１級熱絶縁施工技能士（保温工事）　○１級建築板金技能士（ダクト製作及び取付）　○１級冷凍空気調和機器施工技能士（ﾁﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ、ﾊﾟｯｹｰｼﾞ形空気調和機の据付及び整備）

○見本施工の実施　図示による。（図面番号　　） (1.1.5.4)〈1.1.6.5〉

○化学物質の濃度測定　※実施する（○着工前　※施工完了後） (1.1.5.8)〈1.1.6.9〉　測定対象化学物質　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ　測定対象室及び測定箇所数

室名						
箇所数						

測定方法は監督職員の指示による。

●部分使用検査の実施　●土木部建築工事監督及検査必携（奈良県土木部）に定める部分使用検査による。　○（　　） (1.1.6.2)〈1.1.7.2〉

●完成図等　●完成図（機器製作図含む） (1.1.7.2)(1.1.7.3)　※作成する。 〈1.1.8.3〉<1.1.8.4>　※請負者において完成図を作成し、翰張製本「　」部提出する（原図共）　※完成図は、原則として黒文字製本とし、表紙の書き方は監督職員の指示とする。　○完成図ＣＡＤデータの提出　参考ＣＡＤデータの貸与　○あり　○なし

●保全に関する資料等　保全に関する資料等（建築物等の利用に関する説明書、機器取扱い説明書、機器性能試験成績書、官公署届出書類、主要機器一覧表、総合調整測定表）を提出する。

●その他の引き渡し書類　保証書、施工図（制御システム図・機器配管図定の施工図等）、施工計画書、各種承諾図、工事写真、その他各種検査書類等を整理し、監督職員の指示する部数を提出する。

○既存完成図の修正（多年度継続工事の場合）　既存完成図を今回工事の内容を含んだものに修正し、全体完成図として提出する。

●工事写真・完成写真　※工事写真　「工事写真の撮影マニュアル（奈良県土木部監修）」による。　○完成写真　下表による。 (1.1.2.4)〈1.1.2.4〉

分類・規格	撮影枚数			部数原板の大きさ(mm)
○カラーサービス版	○1	○6	○9	○24×36以上
○カラーキャビネ版	監督職員指示箇所			○100×125以上
○カラースライド	○1	○10	○20	○24×36以上
○カラーパネル半切	○1	○2	○3	○100×125以上
○ﾓﾉｸﾛｰﾑﾍﾞｷｬﾋﾞﾈ版	○1			同　上

（ただし、上記写真は、アルバム製本とする。）

○完成写真として、全紙パネルを　　部提出する。　○完成写真撮影業者（完成写真撮影場所は監督職員の指示による。）　○監督職員の承諾する撮影業者

○制御及び操作盤　機器に付属する制御及び操作盤の仕様の優先順位は、次の（１）～（３）の順番のとおりとする。　(1) 図示による。（図面番号　　）　(2) 標準仕様書第２編表2.1.6～2.1.8による。　ただし、標準仕様書各編で製造者の標準仕様と明示されたものは除く。また、同表の各機材ごとの△印の項目の適用は、　○適用する　○適用しない　インバータ用制御及び操作盤の仕様において標準仕様書第２編1.2.2.2(イ)～(リ)規定は　○適用する　○適用しない　(3) 製造者の標準仕様 (2.1.2.2)

○総合調整　※本工事　○別途工事　総合調整を行う項目は下記による。 (2.1.3.2)〈2.1.3.2〉　○風量調整　○水量調整　○室内外空気の温湿度測定　○室内気流及び塵埃の測定 ○騒音測定　○初期運転状態の測定　○飲料水の水質測定（水道法施行規則第１０条による水質検査）

○継手　管端コア付銅管を除く塩化ビニルライニング鋼管、耐熱性塩化ビニルライニング鋼管及びポリ粉体鋼管で、ねじ接合する場合の継手は管端防食継手とし、バイブニップルは管端防食継手用パイプニップルとする。 (2.2.1.2)

○一般用弁の耐圧　図面に明記なき一般用弁の耐圧は、下記による。 (2.2.2.1)　水道直結配管に使用する弁は、JIS Q 98MPa(10K)弁とする。　その他配管に使用する弁は、　※JIS Q 49MPa(5K)弁　○JIS Q 98MPa(10K)弁

○銅管用伸縮管継手　※ベローズ形　○スリーブ形 (2.2.2.6)

○耐火二層管伸縮継手　取付箇所は図示による (2.2.5.15)〈2.2.3.15〉

○異種管の接合及び絶縁継手　○異種管の接合要領 (2.2.5.17)〈2.2.3.17〉　※標準図（施工３）　○図示　（図面番号　　）　○機器接続部の金属材料と配管材料のイオン化傾向が大きく異なる場合（鋼とステンレス、銅と鋼）は、絶縁継手を使用し、設置箇所及び絶縁継手の仕様は図示による。　（図面番号　　） (2.2.2.10)(2.2.4.1)

○量水器　呼称13のもの　※単箱形接線流羽根車式（乾式直読） (2.2.2.14)　呼称20～40のもの　※単箱形接線流羽根車式（乾式直読）で振動水量指針逆転式　呼称50以上のもの　※湿式たて型軸流羽根車式（液封直読）又は乾式（乾式直読）

○水栓柱　※合成樹脂製　○ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製　○ｽﾃﾝﾚｽ製　○人造石とぎ出し製 (2.2.2.19)　水栓の取付高さ　※約600㎜　○　寸法　※約70㎜×約70㎜×約1,300㎜Ｈ　○

○不凍水栓柱の寸法　※全長約1,500㎜　○ (2.2.2.20)

○スリーブ　（１）外壁の地中部分等水密を要する部分のｽﾘｰﾌﾞ　※つば付銅管○　（２）地中部分で水密を要しない部分のｽﾘｰﾌﾞ　※ビニル管　○　（３）柱及び梁以外の箇所で、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径２００㎜以下の部分は　※紙製仮枠　○ (2.2.2.23)〈2.2.6.1〉

○瞬間流量計　○固定形　個　○着脱可能形（測定用ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞ　個、本体　個） (2.2.3.7)

○建物導入部配管　不同沈下の恐れがある場合は、標準図（施工4）のﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄを使用した方法で施工する。ただし、排水及び通気管を除く。 (2.2.4.1)

○空調機用ﾄｯﾌﾟの形式　図示による。（図面番号　　） (2.2.4.2)

○管の接合　○ビニル管　（　※接着接合　○ゴム輪接合） (2.2.5.10)〈2.2.3.10〉　○架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管　（　○電気融着接合　○ﾒｶﾆｶﾙ接合） (2.2.5.12)〈2.2.3.12〉　○ﾎﾟﾘﾌﾞﾃﾝ管　（　○熱融着接合　○電気融着接合　○ﾒｶﾆｶﾙ接合） (2.2.5.13)〈2.2.3.13〉　○耐火二層管　（　※接着接合　○ゴム輪接合） (2.2.5.15)〈2.2.3.15〉　（伸縮継手の設置箇所は図示による（図示番号　　））

○溶接部の非破壊検査　※適用しない (2.2.5.16)〈2.2.3.16〉　○適用する　（○放射線透過検査　○浸透探傷検査又は粉体探傷検査　）　判定基準　（　　）　抜取率は下記による。

溶接部	種別 使用圧力 / 検査の種類	蒸気配管 1.0MPa未満	蒸気配管 1.0MPa未満	冷却水、冷温水、消火(水用)及び油配管
突合せ溶接部	放射線透過検査（RT）	※　5　%	※　10　%	※　5　%
	浸透探傷検査又は磁粉探傷検査(RT又はMT)			
すみ肉溶接部	浸透探傷検査又は磁粉探傷検査(RT又はMT)	○（　%）	○（　%）	○（　%）

工場溶接部については適用された抜取率の１/５としてもよい。

○配管・ダクトの吊り及び支持　（１）土間埋設配管の吊りはﾋﾞﾄﾞﾝ内（材質はｽﾃﾝﾚｽ鋼製）に準じる。　（２）鋼管、鋳鉄管及びｽﾃﾝﾚｽ鋼管の配管呼び径50以下、ﾋﾞﾆﾙ管、ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管及び銅管の配管呼び径20以下の管の形鋼振止め支持は、 (2.2.6.3)〈2.2.4.3〉　※不要　○要（支持間隔は図示による。（図面番号　　））

○地中埋設管の埋戻土　コンクリート管以外の管を地中埋設とする場合は、管及び被覆樹脂を傷めぬよう山砂の類で管の周囲を埋戻した後、掘削土の良質土で埋戻す。 (2.2.7.1)〈2.2.5.1〉

○管の埋設深さ　（１）一般敷地　※　３００㎜　○　（２）構内車両通路　※　６００㎜　○ (2.2.7.2)〈2.2.5.2〉

○地中埋設標及び埋設表示用ﾃｰﾌﾟ　(1)給水管　地中埋設標　（※要　○不要）埋設表示ﾃｰﾌﾟ　（※要　○不要）　(2)消火管　地中埋設標　（※要　○不要）埋設表示ﾃｰﾌﾟ　（※要　○不要）　(3)ガス管　地中埋設標　（※要　○不要）埋設表示ﾃｰﾌﾟ　（※要　○不要）　(4)油　管　地中埋設標　（※要　○不要）埋設表示ﾃｰﾌﾟ　（※要　○不要）　(5)地中埋設標の設置箇所は図示による。（図面番号　　）　(6)埋設給水本管の分岐、曲り部等の衝撃防護措置は図示による。（図面番号　　） (2.2.7.1)(6.2.2.3)〈2.2.5.1〉<6.2.2.3>

○区画貫通部の処理　標準図（施工１）による。 (2.2.8.1)〈2.2.6.1〉

○保温　（１）保温種別は、仕様書仕様書第２編表２．３．２及び表２．３．５による。ロックウール保温材、グラスウール保温材及びポリエチレンフォーム保温材が併記されている箇所は、どれを使用してもよい。ただし、給水管、排水管で、床下、暗渠内（ピット内を含む）、屋外露出及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）は、ポリスチレンフォーム保温材とする。　（２）共同溝の保温種別は、図示による。（図面番号　　）　（３）冷媒管の保温外装は、下記による。　【屋内】　隠蔽部　※ 不要　○要　　露出部　○ 保温化粧ﾊﾟｰｽ（塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂製）○ 綿布巻き　○　【屋外】　※ ステンレス鋼板　○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板製　○ 保温化粧ケース（○塩化ビニル樹脂製　○アルミ合金製　○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板製）　保温化粧ケースの下部カバー ○要　○不要　断熱材被覆銅管を使用した場合の保温種別は、図示による。（図面番号　　）　（４）氷蓄熱等の冷水管の保温は、図示による。（図面番号　　）　（５）鋼板製タンクの保温は　※ 行わない　○行う（蓋の部分は行わない）　（６）次のダクト等に保温を行う場合は、図示による。（図面番号　　）　○換気用ダクト　○外気取入れ用ダクト　○排気用ダクト　○空調している建物内の還りダクト　○屋内外露出排煙ダクト　○内貼りしたダクト及びチャンバー　○断熱材付フレキシブルダクト及びたわみ継手　○屋外露出の煙導及び煙突　（７）次の管、弁、フランジ等に保温を行う場合は、図示による。　○放熱器廻り蒸気配管及び温水管　○蒸気還り管　（図面番号　　）　○蒸気管及び温水管で、屋内及び暗渠内の各種装置廻りの配管　○蒸気管及び温水管で、屋内及び暗渠内の伸縮管継手、防振継手、ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ等　○冷凍機の冷却水管　○ポンプ廻りの防振継手、ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ等　○各種タンク類のオーバーフロー管及びドレン管（冷水、冷温水タンクの第１バルブまでを除く）　○エア抜弁以降の配管及び排泥弁以降の配管等　○油管　○衛生器具の付属品と異なる器具及び配管（洗し下部の床上排水管を含む）　○給水用配管で、ポンプ廻りの防振継手、ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ　○給水及び排水の地中又はコンクリート埋設配管　○消火管　○給湯管で、屋内及び暗渠内の伸縮管継手、防振継手、ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ等　○保温付被覆銅管　○厨房機器及びガス湯沸器廻りの給水、排水及び給湯管　○排水管で、暗渠内配管（ピット内を含む）、最下階の床下配管、屋外露出配管及び耐火二層管　○通気管（排水管の分岐点より１００㎜以下の部分を除く）　(８)寒冷地等での保温厚は、図示による。（図面番号　　）　(９)高圧（0.1MPa）以上の蒸気管及び蒸気ヘッダーの保温厚は、図示による。（図面番号　　）　(10) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。　(11) エアー抜き管の保温厚は２０㎜とし、仕様は当該配管の項に準ずる。　(12) 保温を施す空調用タンクの蓋の保温　※ 要　○不要　(13) 全熱交換形換気扇の給気ダクトの保温 ※ 要　○不要　(14) 消火用充水タンクの保温　※ 要　○不要 (2.3.1.4)(2.3.1.5)(2.3.1.6)

○塗装　（１）塗料を屋内で使用する場合のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ Ｆ☆☆☆☆　○　（２）調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗りの塗料 ※ JIS K 5516(合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ)の１種　○　ｱﾙﾐﾆｳﾑﾍﾟｲﾝﾄ塗りの塗料 ※ JIS K 5492(ｱﾙﾐﾆｳﾑﾍﾟｲﾝﾄ)の１種　○ (2.3.2.1)　（３）下記の金属配線管は、塗装を行う。　※屋外配管　○（　　）の屋内露出　下記の保温を施さない亜鉛めっきを施したﾀﾞｸﾄ及び配管は、塗装を行わない。　○倉庫　○ 機械室　○（　　）

○ｴﾎﾟｷｼ樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ及びﾗｲﾆﾝｸﾞ（防錆）　※加熱乾燥　○常温乾燥 (2.3.2.2)　〈2.3.2.2〉

○土工事　○地中埋設管を除き、埋め戻し及び盛土は、 (2.4.2.1)　※根切り土の中の良質土を使用し、十分な締め固めを行う。 〈2.7.1.1〉　○山砂の類を使用し、十分な締め固めを行い、水締めを行う。

○残土処分　※構内指示の場所に敷きならし　○構外処分

○ｺﾝｸﾘｰﾄ工事　図面に明記なきコンクリート設計基準強度及びスランプは、下記による。 (2.4.4.1)　設計基準強度　※１８Ｎ/㎟以上　○ 〈2.7.3.1〉　スランプ　※１８㎝以下　○

○鋼材工事　鋼製架台、はしご等の機器付属金物及び配管、ﾀﾞｸﾄの支持金物の屋外部分は、ｽﾃﾝﾚｽ鋼製（SUS304）又は溶融亜鉛めっき（※2種35　○2種50）とする。　ただし、ﾋﾞｯﾄ内等多湿箇所の吊り及び支持金物はｽﾃﾝﾚｽ鋼製（SUS304）とする。 (2.4.6.2)　〈2.7.5.2〉

○はつり　既存のｺﾝｸﾘｰﾄ床、壁等配管貫通部の穴明けは、原則としてﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰを使用する。なお、復旧はモルタル補修とする。

○容量等の表示　機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。　ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は表示された数値以下とする。

○防火区画　○平面階　○図示（図面番号　　）　○

○掲示板　機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図等を描いた掲示板を設ける。

○天井仕上区分　（　　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。

○マンホール、蓋類　県名、用途名入りとする。

○取替機器　機器を取り替えた場合、取替日、請負者名、施工者名及び能力を記した銘板を取付ける。

○天井点検口　天井点検口の裏側に用途名称を付す。

○耐震施工　設備機器の固定は「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所監修）２００５年版」による。なお設計用水平地震力は、次に示す設計用標準水平震度に、機器の重量を乗じたものとする。　また、設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１/２とする。

設計用標準水平震度

設置場所	○特定の施設 重要 機器	○特定の施設 重要 水槽類	○特定の施設 一般 機器	※一般の施設 重要 機器	※一般の施設 重要 水槽類	※一般の施設 一般 機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	2.0	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.5	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.5	1.0(1.5)	1.0(1.5)	1.0	0.6(1.0)
1階及び地下階	1.0(1.0)	1.5	0.6(1.0)	0.6(1.0)	1.0	0.4(0.6)

注　（　　）の内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

重要機器（水槽類）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。）　○消火設備　○水槽類　○　○　○

上層階の定義は、次による。　6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、 (3.2.1.1)(5.2.1.1)　10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 〈3.2.1.1〉<5.2.1.1>

○監督職員事務所　※別途工事（　　） (2.4.1.1)〈1.2.3.1〉　○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度　仕上げの程度

部位	仕様
床	※合板張り又はビニルシート張り　○
内壁 天井	※合板張り又は石膏ﾎﾞｰﾄﾞ張り＋塗装　○
屋根	※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装　○

○総合会議室　※別途工事（　　）　○本工事（規模　　㎡程度） (2.4.1.1)〈1.2.3.1〉

○監督員事務所の備品　監督員事務所を設ける場合の備品は、図面番号（　　）による。 (2.4.1.1)〈1.2.3.1〉

●工事用水　構内既存の施設　※利用できない　●利用できる（○有償　●無償） 〈1.2.2.2〉

●工事用電力　構内既存の施設　※利用できない　●利用できる（○有償　●無償） 〈1.2.2.2〉

●工事用仮設物　協議による。

●足場・さん橋類　※関係者が設置したものは、無償で使用できる。　●本工事で設置する。　足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式及び(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 (2.4.1.1)〈1.2.2.1〉

○方式　○空気調和　○ダクト方式（○中央　○各階ユニット）　○ファンコイル・ダクト併用方式　○個別方式　○温風暖房　○温風暖房機　○空気調和機（冷房考慮）　○直接暖房　○低圧蒸気　○温水　○冷房　○パッケージ形空気調和機

○主要熱源機器　○ボイラー　○温風暖房機　○温水発生機　○遠心冷凍機　○スクリュー冷凍機　○吸収冷凍機　○冷却塔　○チリングユニット　○空気熱源ヒートポンプユニット　○直だき吸収冷温水機　○小型吸収冷温水機ﾕﾆｯﾄ　○ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ装置　○水蓄熱ユニット　○ユニット形空気調和機　○コンパクト形空気調和機　○パッケージ形空気調和機　○ガスエンジン式パッケージ形空気調和機　○ファンコイルユニット　○空気清浄装置　○全熱交換器　○放熱器

○設計時の温湿度条件

場所	屋外 時期	温度(DB)	湿度(RH)	屋内（調整目標値） 一般事務室 温度(DB)	湿度(RH)
	冬期	℃	%	℃	%
	夏期	℃	%	℃	%

○ダクトの種別　※低圧ダクト　○高圧１ダクト　○高圧２ダクト (3.2.2.2)〈3.2.2.2〉

○ダクトの工法　○アングルフランジ工法　○スパイラルダクト　○フレキシブルダクト　○コーナーボルト工法（　○ 共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法）　（長辺の長さが１５００㎜以下の部分） (3.2.2.1)～(3.2.2.5)〈3.2.2.1〉～〈3.2.2.5〉

○チャンバー等　製作及び取付は、標準仕様書第３編２．２．２「アングルフランジ工法ダクト」の当該事項による。　消音内貼 ※要（標準仕様書第２編表２．３．２及び表２．３．４による。）　○不要 (2.3.1.4)(3.1.14.5)(3.2.2.2)(3.2.2.7)

○吹出口及び吸込口ボックスの材料　※亜鉛鉄板製　○グラスウール製 (3.1.14.6)

○風量測定口の取付位置　図示による。（図面番号　　） (3.2.2.7)

○配管材料　図面に明記なき配管材料は、下記による。 (2.2.1.2)　（１）冷温水管・膨張管・エアー抜管・膨張タンクよりボイラー等への補給水管　※配管用炭素鋼鋼管（白管）　○耐熱性ライニング鋼管（SGP-HVA、SGP-H-FVA、SGP-H-FCA）　○ステンレス鋼管（SUS304）（継手　　）　（２）冷却水管　※配管用炭素鋼鋼管（白管）　○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA）　○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（SGP-PA、SGP-FPA）　○ステンレス鋼管（SUS304）（継手　　）　（３）蒸気給気管　※配管用炭素鋼鋼管（黒管）　○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370黒管Sch40)

日付	平成２３年　６月１０日
工事名	舞台吊り物ワイヤーロープ改修工事(第2期)
図面名	特記仕様書１

主幹	係長	設計	係員	番号

舞台吊り物ワイヤーロープ改修工事(第2期)特記仕様書

1. 概　要

この工事は，奈良県橿原文化会館（以下「文化会館」という。）の大ホール、小ホールに設置している舞台機構設備の吊り物ワイヤー等について、経年劣化した物について取り替え工事を行うものである。

工事範囲は、別表1，2に示したとおり。

2. 適用基準

本特記仕様書および図面に記載されていない事項は、下記の技術基準による。

（1） 懸垂物安全指針・同解説(日本建築センター)

（2） 建設大臣官房官庁営繕部監修「機械設備工事共通仕様書」

（3） 建設大臣官房官庁営繕部監修「機械設備工事施工監理指針」

3.工事名称

舞台吊り物ワイヤーロープ改修工事(第2期)

4. 施工場所

橿原市北八木町3丁目65－5　　奈良県橿原文化会館　大小ホール内

5. 工事期間

契約締結日から平成24年3月30日までとする。

6. 特記事項

（1）交換する部品、ワイヤー、麻ロープ等は、その品質を保証する書類等を事前に提出し承諾を得ること。

（2）撤去材については関係法規に従い、請負者の責任において廃棄物処分すること。

（3）工事完成時には、文化会館の監督員立ち会いの上、次の通り試運転調整記録を行うこと。

ア　試運転調整は、施工業者の要領による。

イ　測定記録

1　ブレーキライニング厚、ワイヤーロープ径測定

2　電動吊り物昇降速度、昇降電流値および絶縁測定

3　その他施工業者指定報告書の通りとする。

（4）納入後、1カ年以内に製作、不備に起因する故障が発生した場合は、速やかに修理又は不良部品を取り替えるものとする。また、納入後、ワイヤーロープ等の調整を瑕疵担保期間中毎月実施する事。　但し、費用は請負者とする。

(5)機器性能

ブレーキ　　機構の荷重、速度、制動時の滑り等に適したものであり、電動機の起動、停止と連携して動作すること。ブレーキの保持はスプリングによるなど、動力を必要としない方式とし、制止トルクは停止状態を保持するために必要なトルクの1．5倍以上とする。

ブレーキ電源

ブレーキ電源ユニット又は、、シリコンスタック及び端子台で構成され、各装置のブレーキを制御する。ブレーキ仕様と合致したものを選定する。

vベルト

JISマーク表示品又はこれと同等の製品とする。ベルトのサイズ、長さは各装置に適合するものを選定する。

開閉ランナー

レールに応じた形状とし、吊り荷重に耐え、幕の開閉が円滑に行える構造とする。

カーテンレール

用途、荷重に応じた形式、材質のレールを使用し、吊り荷重に耐え、幕の開閉が円滑に行える構造とする。

開閉ロープ

（手引き開閉用）Φ9綿ロープ(黒染金剛打)とする。

ワイヤーロープ

JISマーク表示品またはこれと同等の製品とする。ワイヤーロープに加わる荷重は、定格積載の吊物機構静止時において、JIS破断荷重の1／10以下とする。ワイヤーロープとバトンその他の吊物機構機器等との接続は適切な取付金物等を用い端部は一本ごとに緊結する。

麻ロープ

麻ロープに加わる荷重は、定格積載の吊物機構静止時において、そのロープの引張り強さの1／10以下とする。

伝達軸

目的に応じた材質、寸法のものを機械加工し、適切な継手及び軸受けで固定する。

7. 監督及び検査

監督員の指示に従って施工すること。

工事完了後は検査員の検査を速やかに受けること。

8. 作業実施日

文化会館と協議すること。

9. 支給品

文化会館は工事場所内作業時に必要とする水、電気を無償支給する。

10. 損害復旧

請負者は工事の実施にあたり、その責に帰すべき事由により、文化会館又は第三者に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。但し、天災その他不可抗力と認められる場合はこの限りでない。

11. かし担保

かし担保保証については、検査合格のうえ引き渡し日から1年間とする。

12. 留意事項

（1）工事期間中の業務の確保

イ、この工事では、工事期間中も文化会館は平常業務を行うので、特に安全、防災の確保及び騒音、振動、塵埃等の防止に充分留意するとともに、万全の対策を行ったうえ、会館の平常業務を確保すること。

（2）届出及び承認事項

以下の作業等については、予め文化会館へ届出（5日前原則）その承認を得た後、実施すること。

イ、騒音、振動、悪臭、塵埃等が発生する作業。

ロ、火気を使用する作業。

ハ、平常業務時間外の作業。（平常時間8時30分～17時15分まで）

ニ、休日の作業。（休日　木曜日）

ホ、自動車の乗入れ。

ヘ、会館内への工事関係者の出入り。（経路は監督員の指示によること）

（3）養生、安全対策等

イ、資材置き場は監督員と協議すること。

ロ、工事対象設備機器周辺の設備機械、施設には適切な養生を施し、汚損、破損を及ぼさないように十分留意すること。

ハ、工事対象設備機器以外の設備機器は、工事期間中も運転を行うので事故が生じないように充分留意すること。

ニ、火災防止について万全の対策を図ること。

ホ、施設利用者に対して災害または、利用に支障を及ぼさないよう万全の対策を図るとともに充分留意すること。

ヘ、施工着手前に、監督員、請負者、現場代理人立会いの上、工事対象設備機器及びその周辺の現状を確認し、写真等により記録しておいて完成時に再確認を行うこと。

ト、損傷等が生じ、復旧の必要が生じたもの、または監督員の承認を得て、施工上やむを得ず一時撤去したものは、請負者の負担において現状同等以上に復旧すること。

（4）工期

工事はできるだけ早く施工し、工程を厳守すること。

13. 提出書類

番号	提出書類名	提出時期等	部数
1	現場代理人届	着工前(経歴共)	1
2	主任技術者届	〃　(　〃　)	1
3	着工届	〃	1
4	工事工程表	〃	2
5	施工計画書	〃	2
6	作業員名簿	着工前	1
7	承諾図	〃	2
8	工事日誌	作業時毎日	1
9	臨時火気使用届	火気使用前(所定様式)	1
10	竣工届	工期内	1
11	完成図書	工期内	2
12	工事記録写真	〃	1
13	引渡書	引渡時	1
14	監督員が指示するもの	随時	1

※ 11 完成図書として、試験成績表、取扱説明書、部品図を提出すること。

15.その他

・工事目的上当然必要である施工等については、設計図書に明示のないものでも契約締結金額内で誠実に履行すること。

・現場の納まり、取り合わせなどの関係で生ずる材料の寸法、取り付けの位置、方法等の軽微な変更は監督員と協議すること。

・軽微な変更については契約締結金額内の金額の増減はしないものとすること。

（別表1—1）　大ホール舞台吊り物ワイヤーロープ等取替明細

区分	ワイヤーロープ取替		マニラロープ取替		ランナー	開閉幕レール	綿ロープ　mm	ブレーキシュー	ブレーキ電源	Vベルト
名称	線径φ＊吊点	長さ　m	線径　mm	長さ　m	個数、組	組	線径×長さ m	型式×組	組	型式×本数
定式幕(吊点)	６＊９	500	—	—	—	—	—	—	—	—
定式幕(動索)	８＊１	70	—	—	—	—	—	—	—	—
第1緞帳	６＊８	364	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
第2緞帳	６＊８	364	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
絞り緞帳(外1、外2、外中央)	—	—	—	—	—	—	—	SM10×3組	SM10用×3組	A32×4本，A33×2本
スクリーン枠	８＊６	273	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A36×3本
スクリーンカーテン	—	—	—	—	親車×6個	—	—	—	—	A25×1本
袖カットマスク	—	—	—	—	子車×88個	—	—	—	—	A25×1本
サスペンションライト・1	６＊８	404	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
サスペンションライト・2	６＊７	357	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
サスペンションライト・4	６＊７	357	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
サスボーダーライト・3	６＊８	404	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A34×3本
ライトタワー・上手	６＊４	120	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A31×3本
ライトタワー・下手	６＊４	120	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A31×3本
天井反射板・1（変角）	６＊６	260	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
天井反射板・1（ｽﾄｯﾊﾟｰ）	１０＊１	45	—	—	—	—	—	—	—	—
天井反射板・1（バランス）	１０＊６	369	—	—	—	—	—	—	—	—
天井反射板・2（変角）	６＊５	200	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
天井反射板・2（ｽﾄｯﾊﾟｰ）	１０＊１	45	—	—	—	—	—	—	—	—
天井反射板・2（バランス）	１０＊５	220	—	—	—	—	—	—	—	—
正面反射板(昇降)	１０＊５	220	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
側面反射板・上手1(昇降)	１２＊２	130	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
側面反射板・上手1(ｾｯﾄ)	１２＊２	36	—	—	—	—	—	—	—	—
側面反射板・上手2(ｾｯﾄ)	１２＊２	36	—	—	—	—	—	—	—	—
側面反射板・上手2(昇降)	１２＊２	130	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
側面反射板・下手1(昇降)	１２＊２	130	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
側面反射板・下手1(ｾｯﾄ)	１２＊２	36	—	—	—	—	—	—	—	—
側面反射板・下手2(ｾｯﾄ)	１２＊２	36	—	—	—	—	—	—	—	—
側面反射板・下手2(昇降)	１２＊２	130	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
一文字幕・6	６＊８	348	28	43	—	—	—	—	—	—
暗転幕	６＊８	324	28	43	—	—	—	—	—	—
袖幕・1	６＊６	249	28	43	1組	1組	9-68	—	—	—
袖幕・2	６＊８	334	28	43	1組	1組	9-68	—	—	—

工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
舞台吊り物ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ改修工事(第2期)	S=NTS						
仕様書（別表1-1）							

（別表1—2） 大ホール舞台吊り物ワイヤーロープ等取替明細

区分	ワイヤーロープ取替		マニラロープ取替		ランナー	開閉幕レール	綿ロープ mm	ブレーキシュー	ブレーキ電源	Vベルト
名称	線径φ＊吊点	長さ m	線径 mm	長さ m	個数、組	組	線径×長さ m	型式×組	組	型式×本数
袖幕・3	6＊6	252	28	43	1組	1組	9-64	—	—	—
袖幕・4	6＊4	164	28	43	1組	1組	9-64	—	—	—
袖幕・5	6＊6	246	28	43	1組	1組	9-64	—	—	—
大黒幕	6＊8	332	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・1	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・3	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・4	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・5	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・6	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・7	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・8	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・9	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・10	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・11	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・12	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・13	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・14	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
バトン・15	6＊8	348	28	43	—	—	—	—	—	—
引割幕・1	6＊10	415	28	43	1組	1組	9-74	—	—	—
引割幕・2	6＊10	415	28	43	1組	1組	9-74	—	—	—
ボーダーライト・1	6＊7	329	28	43	—	—	—	—	—	—
ボーダーライト・2	6＊7	329	28	43	—	—	—	—	—	—
ボーダーライト・4	6＊7	329	28	43	—	—	—	—	—	—
ホリゾント幕	6＊8	332	28	43	—	—	—	—	—	—
ホリゾントライト	6＊8	380	28	43	—	—	—	—	—	—
綱元安全柵	6	50	—	—	—	—	—	—	—	—

ワイヤ端末加工（1L型ロック加工） 1式

ワイヤークリップ 1式

ギヤオイル

ダフニーメカニックオイル320 40ﾘｯﾄﾙ

ダフニースーパーギヤオイル320 1ﾘｯﾄﾙ

定式幕用電動ウインチ(延長コード10m付) 0.67kw、10.5m/秒 1台

オーケストラ迫り機構修繕 1式

高速軸3本、高速軸ﾋﾟﾛｰﾌﾞﾛｯｸ 7式 、高速軸カップリング 2個

高速軸Vﾌﾟｰﾘ C-6 1個 、Vﾍﾞﾙﾄ C-132 6本

工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
舞台吊り物ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ改修工事(第2期)	S=NTS						
仕様書（別表1-2）							

（別表2）　小ホール舞台吊り物ワイヤーロープ等取替明細

区分	ワイヤーロープ取替		マニラロープ取替		ランナー	開閉幕レール	綿ロープ　mm	ブレーキシュー	ブレーキ電源	Vベルト
名称	線径φ＊吊点	長さ　m	線径　mm	長さ　m	個数、組	組	線径×長さ m	型式×組	組	型式×本数
緞帳	６＊５	135	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A32×3本
定形絞り緞帳(昇降用)	４＊９メッキ	230	—	—	—	—	—	SM10×１組	SM10用×1組	A33×2本
定形絞り緞帳(固定吊り用)	６＊	35	—	—	—	—	—	—	—	—
巻取スクリーン	４＊２メッキ	70	—	—	—	—	—	SM10×１組	SM10用×1組	A31×2本
天井反射板（ストッパー）	１０＊１	30	—	—	—	—	—	—	—	—
天井反射板（バランス）	８＊５	125	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A37×3本
側面反射板・上手(セット)	１０＊２	30	—	—	—	—	—	—	—	—
側面反射板・上手(昇降)	９＊２	50	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A32×3本
側面反射板・下手(昇降)	９＊２	50	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A32×3本
側面反射板・下手(セット)	１０＊２	30	—	—	—	—	—	—	—	—
正面反射板(昇降)	９＊５	136	—	—	—	—	—	SM20×１組	SM20用×1組	A38×3本
一文字幕・2	４＊２	125	28	27	—	—	—	—	—	—
一文字幕・4	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
サスペンションライト・2	６＊４	106	28	27	—	—	—	—	—	—
袖幕・2	４＊６	146	28	27	1組	1組	9-44	—	—	—
バトン・1	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
バトン・2	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
バトン・3	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
バトン・4	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
引割幕	６＊７	169	28	27	1組	1組	9-40	—	—	—
ボーダーライト・1	４＊４	106	28	27	—	—	—	—	—	—
ホリゾント幕	４＊７	120	28	27	—	—	—	—	—	—
ホリゾントライト	６＊４	106	28	27	—	—	—	—	—	—
一文字幕・3	４＊５	125	28	27	—	—	—	—	—	—
大黒幕	—	—	—	—	1組	1組	9-42	—	—	—
袖幕1	—	—	—	—	1組	1組	9-42	—	—	—
綱元安全柵	6	15	—	—	—	—	—	—	—	—

ワイヤ端末加工（1L型ロック加工）	1式
ワイヤークリップ	1式
ギヤオイル ダフニーメカニックオイル320	12ﾘｯﾄﾙ

工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
舞台吊り物ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ改修工事(第2期) 仕様書（別表2）	S=NTS						

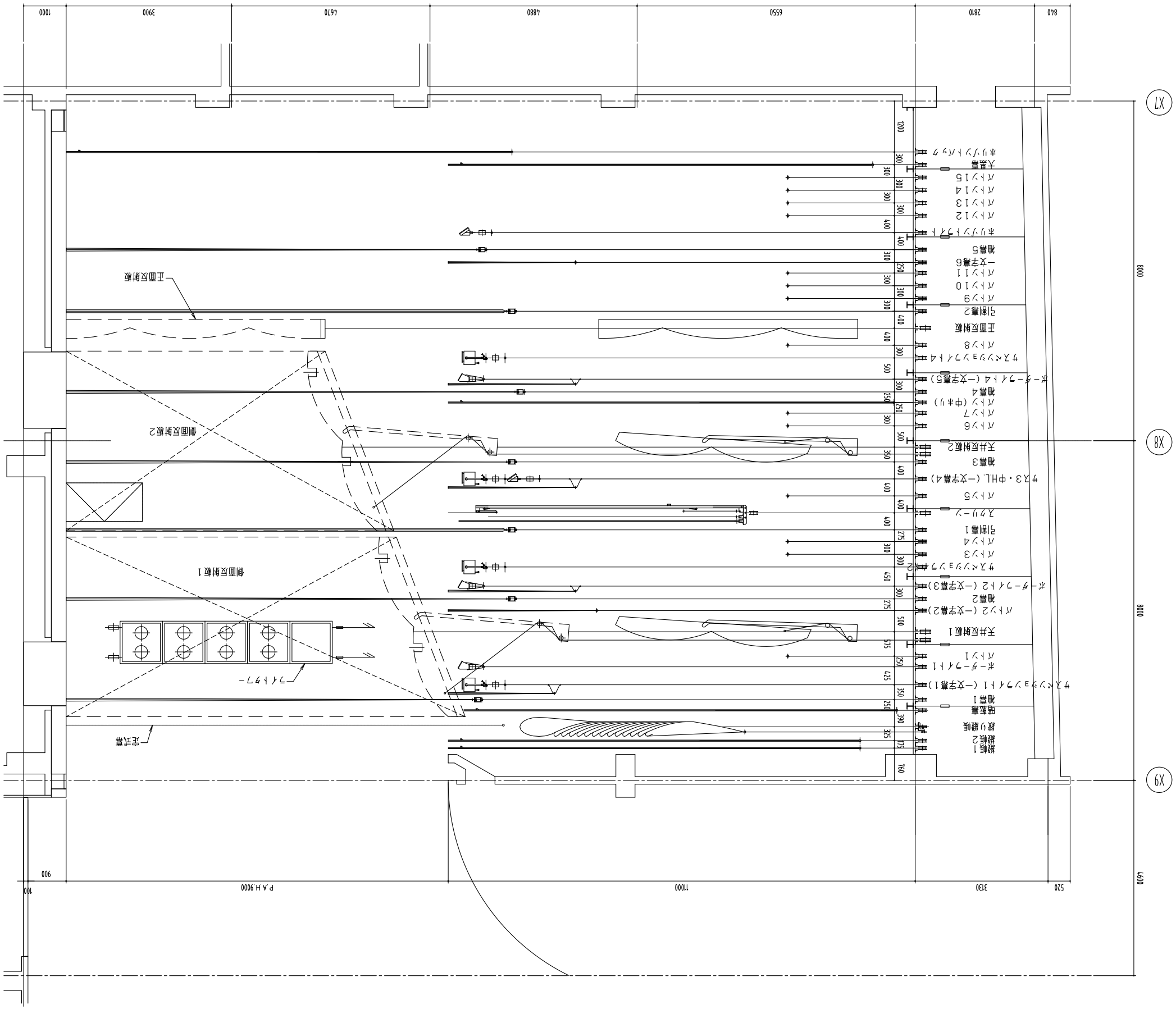
舞台吊物機構仕様

工事名・図面名		縮尺		主幹		係長		設計		係員		番号
庫原文化会館（大ホール）舞台吊物ワイヤロープ改修工事（第2期）		S=NTS										
舞台吊物機構 仕様書												

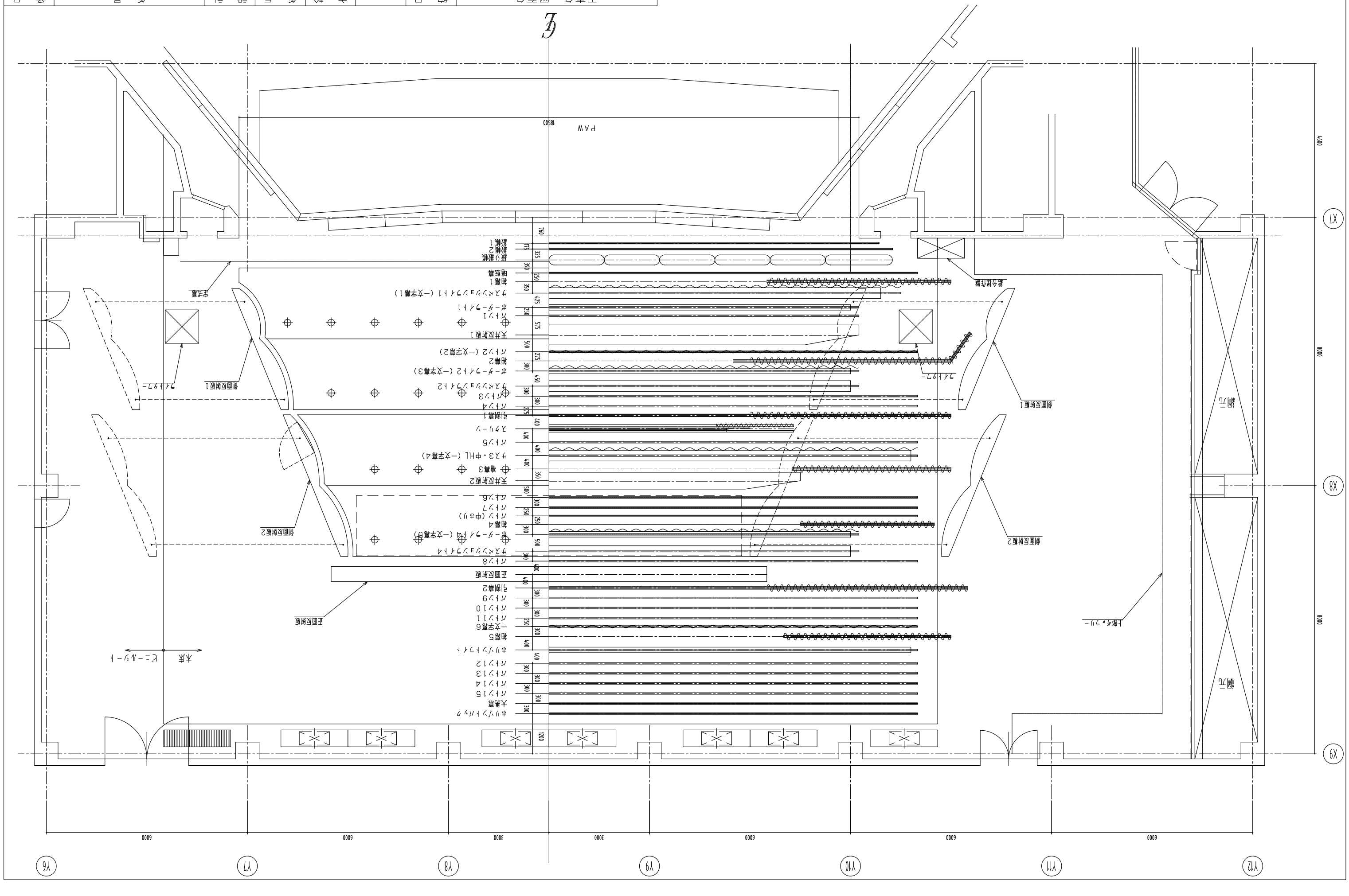
NO	装置名称	改修工事項目									寸法（mm）	駆動方式	速度（m/min）	動力（kw）	ワイヤ径（mm）	吊数	吊物荷重（kg）	操作方法	制御方式	備考
		プレーキ	プレーキ電源	ベルト	ブッチ	開閉幕レール	開閉口ープ	ワイヤ	ギアスイル	錘ロープ	ワイヤ									
1	緞帳 1	○	○	——	——	——	——	○	○	——	19700	電動昇降W／Tボ式	30/45	22	6φ	8	1100	直入れ	押釦式	
2	緞帳 2	○	○	——	——	——	——	○	○	——	20500	電動昇降W／Tボ式	30/45	22	6φ	8	1100	直入れ	押釦式	
3	袖幕 1	——	——	——	——	——	——	——	——	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	——	8	250	——	——	
4	吸音緞帳	○	○	——	——	——	——	○	○	——	25000	電動昇降C／Wボ式	22 15	0.75	4φ	13	400	直入れ	押釦式	
5	袖幕 1	——	——	——	○	——	○	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	——	8	250	——	——	
6	ウスペンダントイ 1	○	○	——	——	——	——	○	○	——	5500 × 2	手動昇降C／Wヨ組開閉式	——	——	——	6	90	——	——	
7	ホーダ－ライト 1	——	——	——	——	——	——	○	○	——	21000	電動昇降W／Tボ式	15	22	6φ	8	550	直入れ	押釦式	－文字幕 1 点用（21，000×2，500）
8	バトン 1	——	——	——	——	——	——	○	○	——	18500	手動昇降C／Wボ式	——	——	——	7	250	——	——	
9	天井反射板 1 昇降	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム巻取式	3	15	10φ	6	2800	直入れ	押釦式	
	変角	——	——	——	——	——	——	——	○	——					6φ	6				
10	バトン 2	——	——	——	——	——	——	——	——	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	－文字幕 2 点用（22，000×3，500）
11	袖幕 2	——	——	○	○	——	○	——	——	——	6500 × 2	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	8	120	——	——	
12	ホーダ－ライト 2	——	——	——	——	——	——	○	○	——	18500	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	7	250	——	——	－文字幕 3 点用
13	ウスペンダントイ 2	○	○	——	——	——	——	○	○	——	18500	電動昇降W／Tボ式	15	22	6φ	7	550	直入れ	押釦式	
14	バトン 3	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
15	バトン 4	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
16	引割幕 1	——	——	——	○	○	○	○	○	——	24000	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	10	250	——	——	
17	スクリーン	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降W／Tボ式	6	15	8φ	6	600	直入れ	押釦式	
18	スクリーンカーテン	——	——	○	○	——	——	——	——	——	跳ねこよる	電動開閉ドラム巻取式	10	0.2			80	直入れ	押釦式	
19	補カットマスク	——	——	——	○	——	——	——	——	——	跳ねこよる	電動開閉ドラム巻取式	10	0.2			80	直入れ	押釦式	
20	バトン 5	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
21	サス 3 ・ 中ホリゾント	○	○	——	——	——	——	○	○	——	22000	電動昇降W／Tボ式	15	22	6φ	8	600	直入れ	押釦式	－文字幕 4 点用（22，000×3，000）
22	袖幕 3	——	——	○	○	○	○	——	——	——	4750 × 2	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	6	100	——	——	
23	天井反射板 2 昇降	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム変角式	3	15	10φ	5	2200	直入れ	押釦式	
	変角	——	——	——	——	——	——	○	——	——					6φ	5				
24	バトン 6	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
25	バトン 7	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
26	バトン（中ホリ）	——	——	——	——	——	——	——	——	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
27	袖幕 4	——	——	——	○	○	○	○	○	——	4000 × 2	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	4	90	——	——	
28	ホーダ－ライト 4	——	——	——	——	——	——	○	○	——	18500	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	7	250	——	——	－文字幕 5 点用（19，000×3，000）
29	ウスペンダントイ 4	——	——	○	——	——	——	○	○	——	18500	電動昇降W／Tボ式	15	22	6φ	7	550	直入れ	押釦式	
30	バトン 8	——	——	——	——	——	——	○	——	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
31	正面反射板	○	○	——	——	——	——	——	——	——	跳ねこよる	電動昇降W／Tボ式	6	22	10φ	5	2500	直入れ	押釦式	
32	引割幕 2	——	——	○	○	○	○	○	○	——	25000	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	10	260	——	——	
33	バトン 9	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
34	バトン 10	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
35	バトン 11	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
36	一文字幕 6	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
37	袖幕 5	——	——	○	○	○	○	○	○	——	5000 × 2	手動昇降C／W引組開開式	——	——	6φ	6	100	——	——	
38	ホリゾント 4	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	450	——	——	
39	バトン 12	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
40	バトン 13	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
41	バトン 14	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
42	バトン 15	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
43	大黒幕	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
44	ホリゾントパック	——	——	——	——	——	——	○	○	——	22000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	8	250	——	——	
45	側面反射板 1 上手	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム巻取式	3	22	12φ	2	1200	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊	——	——	12φ	2				
46	側面反射板 1 下手	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム巻取式	3	22	12φ	2	1200	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊	——	——	12φ	2				
47	側面反射板 2 上手	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム巻取式	3	22	12φ	2	1200	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊	——	——	12φ	2				
48	側面反射板 2 下手	○	○	——	——	——	——	○	○	——	跳ねこよる	電動昇降ドラム巻取式	3	22	12φ	2	1200	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊	——	——	12φ	2				
49	フィルター 上手	——	——	——	——	——	——	○	——	——	1000 × 4 段	電動昇降ドラム巻取式	6	15	6φ	4	200	直入れ	押釦式	
50	フィルター 下手	○	○	○	——	——	——	○	○	——	1000 × 4 段	電動昇降ドラム巻取式	6	15	6φ	4	200	直入れ	押釦式	
51	定式幕	——	——	——	——	——	——	○	○	——	10000H	電動ウインチ昇降手引開閉式	約10.5	0.67	8φ 6φ	9	100			動索ワイヤ φ8
52	緞帳安全柵	——	——	——	——	——	——	○	——	——	5000 × 2000、6500 × 2000	手動昇降C／Wボ式	——	——	6φ	6	250			

※1 動索ワイヤ、捻ワイヤとも更新
※2 ベンダントスイッチ含む

工事名・図面名		縮尺		主幹		係長		設計		係員		番号
横原文化会館（木－Ⅱ）舞台吊物ﾌﾚｷｼﾛｰﾌﾟ改修工事（第2期）		1/50										
舞台吊物機構 断面図												



工事名・図面名		縮尺		主幹		係長		設計		係員		番号
舞原文化会館（大ホール）舞台吊物フィロー7改修工事（第2期）		1/50										
舞台吊物機構 平面図												


℄
PAW
18500
760
175
325
390
250
350
425
250
575
500
275
300
450
300
300
275
400
400
400
350
500
300
250
250
300
500
300
400
400
300
300
300
250
300
400
400
300
300
300
300
300
300
1200
ロボット
ブリッジ
ブリッジ
ブリッジ

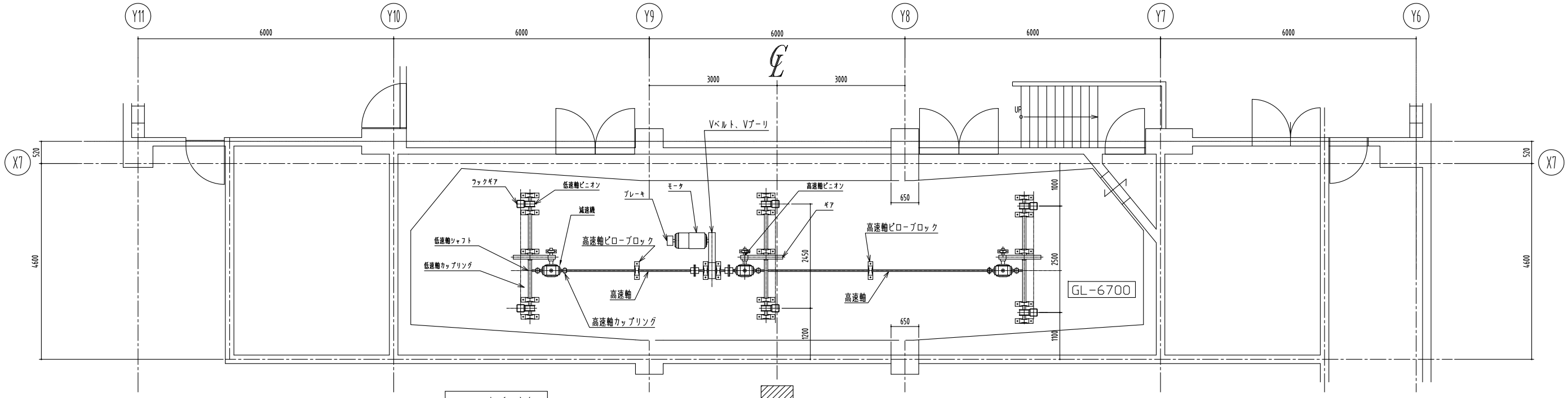
部材表

記号	材料
A	2 [x150x 75x 6.5
B	[x150x 75x 6.5
C	[x150x 75x 6.5
D	[x100x 50x 5
E	C75x 45x 15x 2.3 @150

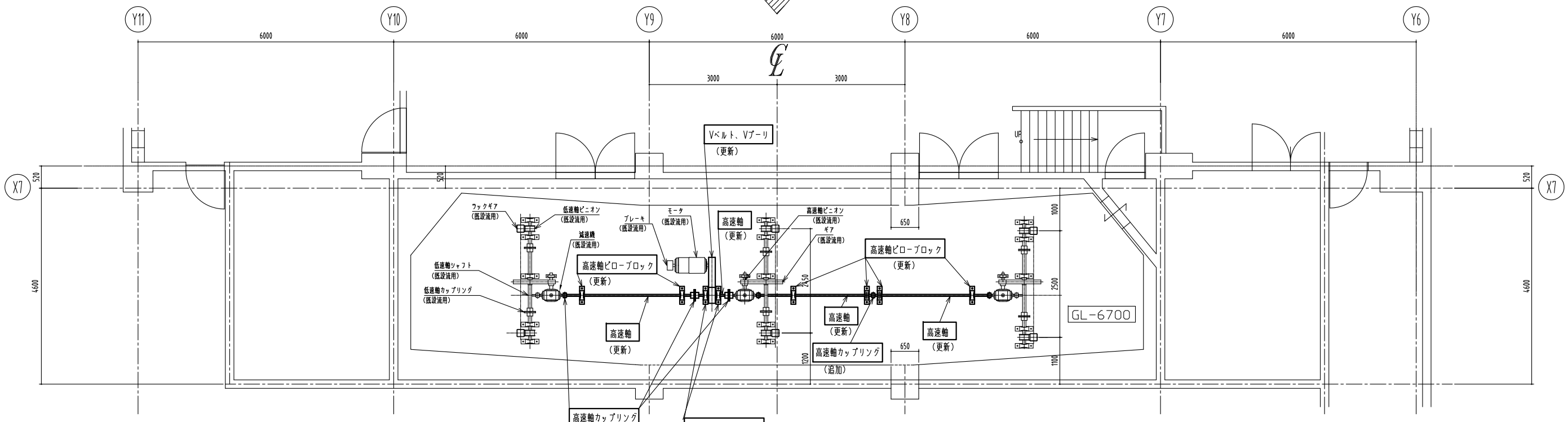
工事名・図面名	縮 尺		主 幹		係 長	設 計	係 員	番 号
舞台吊物機構 すのこ図 (文ホ－ル) 舞台吊物ワイヤロープ改修工事 (第2期) 埼原文化会館	1/50							

床機構仕様

No.	装置名称	寸法（mm）	面積（m^2）	機構方式	駆動方式	自重（kg）	運転時荷重	停止時荷重	速度	ストローク（mm）	停止箇所	動力（kW）	操作方式	制御方式	更新部品				
															Vﾍﾞﾙﾄ	高速軸Vﾌﾟｰﾘ	高速軸	高速軸ﾋﾟﾛｰﾌﾞﾛｯｸ	高速軸ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ
1	オーケストラ迫り	図面に依る	約63	昇降	ラックギヤ	13000	100kg／m^2	500kg／m^2	2 m/min	5500	4	15	釦スイッチ	直入れ始動	○	○	○	○	○



更新前



更新後

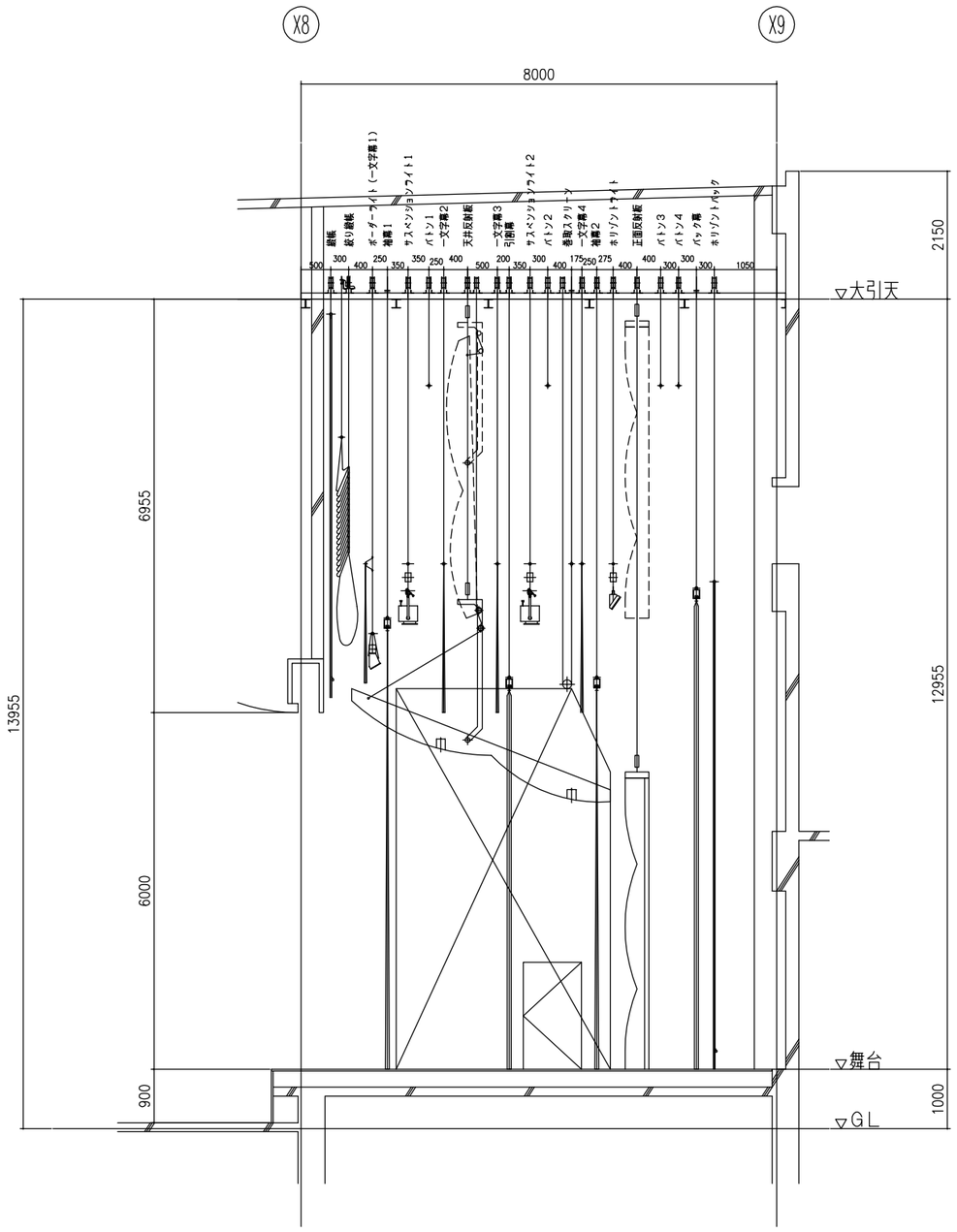
□印は床機構改修工事更新部品名称を示す

工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
種原文化会館（大ホール）舞台吊物ﾜｲﾔﾛｰﾌﾟ改修工事（第2期）	1/50						
舞台吊物機構 オーケストラ迫りピット図							

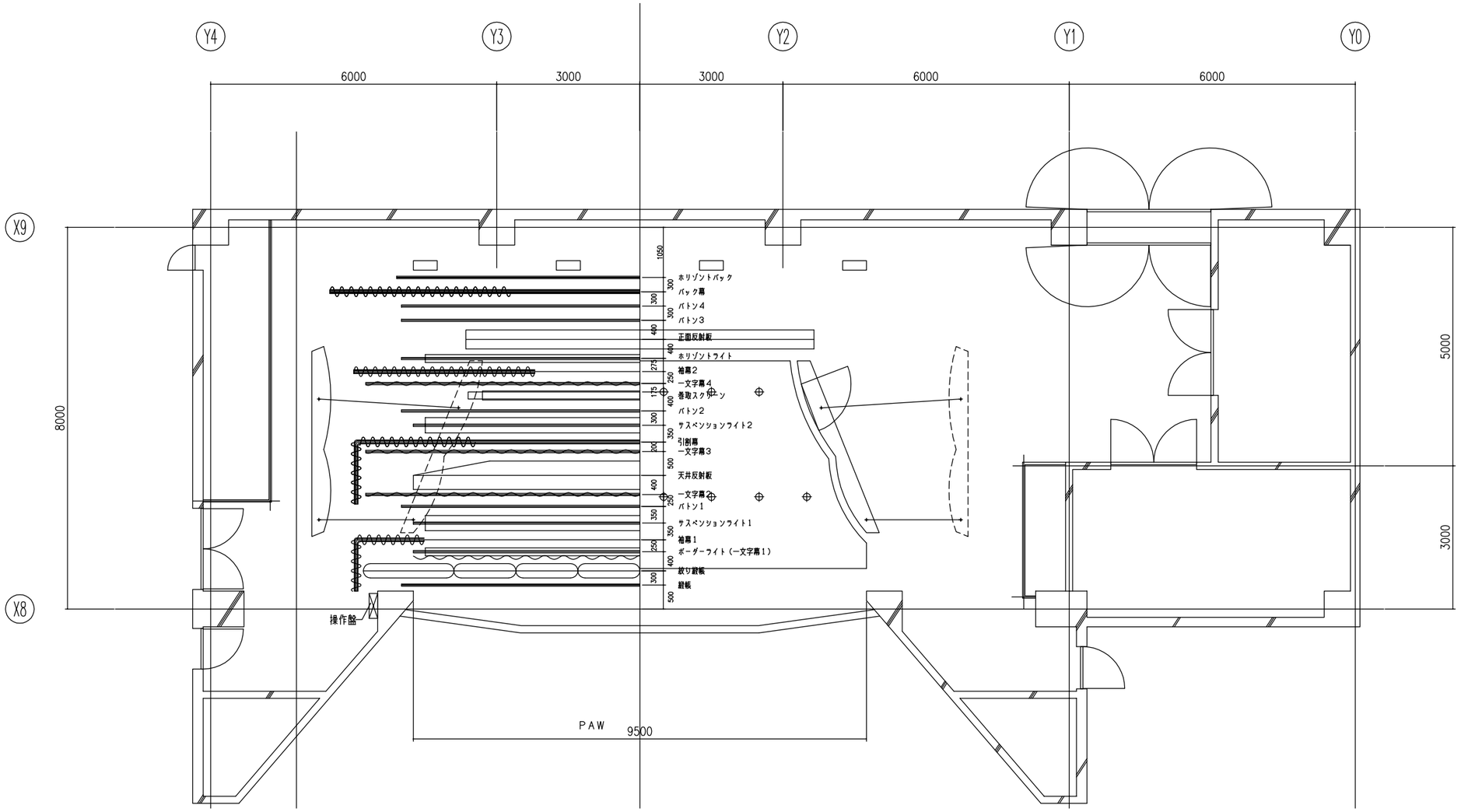
舞台吊物機構仕様

NO	装置名称	改修工事項目 ブレーキシュ	ブレーキ電源	Vベルト	ランナー	開閉幕レール	開閉ロープ	ワイヤー	ギヤオイル	麻ロープ	寸法（mm）	駆動方式	速度（m／min）	動力（kw）	ワイヤ径（mm）	吊数	吊物荷重（kg）	操作方法	制御方式	備考
1	緞帳	○	○	○	——	——	——	○	○	——	10500	電動昇降W／T式	30	1.5	6φ	5	450	直入れ	押釦式	
2	絞り緞帳	○	○	○	——	——	——	○	○	——	11600	電動昇降ドラム巻取式	30	2.2	メッキ4φ	9	270	直入れ	押釦式	定形
3	ボーダーライト	——	——	——	——	——	——	○	——	○	9500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	4	200	——	——	一文字幕（1）共吊
4	袖幕 1	——	——	——	○	○	○	○	——	○	2500 × 2	固定吊引紐開閉式	——	——	吊ボルト	6	50	——	——	
5	サスペンションライト1	——	——	——	——	——	——	——	——	——	9500	手動昇降C／W式	——	——	6φ	4	350	——	——	
6	バトン1	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
7	一文字幕2	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
8	天井反射板　昇降	○	○	○	——	——	——	——	○	——	別紙による	電動昇降ドラム変角式	3	1.5	8φ	5	1300	直入れ	押釦式	ダウンライト組込
	変角	——	——	——	——	——	——	○	——	——					6φ	5				
9	一文字幕3	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
10	引割幕	——	——	——	○	○	○	○	——	○	11500	手動昇降C／W引紐開閉式	——	——	6φ	7	100	——	——	
11	サスペンションライト2	——	——	——	——	——	——	○	——	○	9500	手動昇降C／W式	——	——	6φ	4	350	——	——	
12	バトン2	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
13	巻取スクリーン	○	○	○	——	——	——	○	○	——	6600	電動昇降ドラム巻取式	10	0.4	メッキ4φ	2	100	直入れ	押釦式	イメージW 6600×H2500
14	一文字幕4	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
15	袖幕2	——	——	——	○	○	○	○	——	○	3800 × 2	手動昇降C／W引紐開閉式	——	——	4φ	6	70	——	——	
16	ホリゾントライト	——	——	——	——	——	——	○	——	○	10000	手動昇降C／W式	——	——	6φ	4	350	——	——	
17	正面反射板	○	○	○	——	——	——	○	○	——	別紙による	電動昇降W／T式	6	2.2	9φ	5	1100	直入れ	押釦式	
18	バトン3	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
19	バトン4	——	——	——	——	——	——	○	——	○	11500	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	200	——	——	
20	バック幕	——	——	——	○	○	○	○	——	○	13000	固定吊引紐開閉式	——	——	吊ボルト	7	100	——	——	
21	ホリゾントバック	——	——	——	——	——	——	○	——	○	10700	手動昇降C／W式	——	——	4φ	5	100	——	——	
22	側面反射板　上手	○	○	○	——	——	——	○	○	——	別紙による	電動昇降ドラム巻取式	3	2.2	9φ	2	660	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊			9φ	2				
23	側面反射板　下手	○	○	○	——	——	——	○	○	——	別紙による	電動昇降ドラム巻取式	3	2.2	9φ	2	660	直入れ	押釦式	
		——	——	——	——	——	——	○	——	——		固定吊			9φ	2				

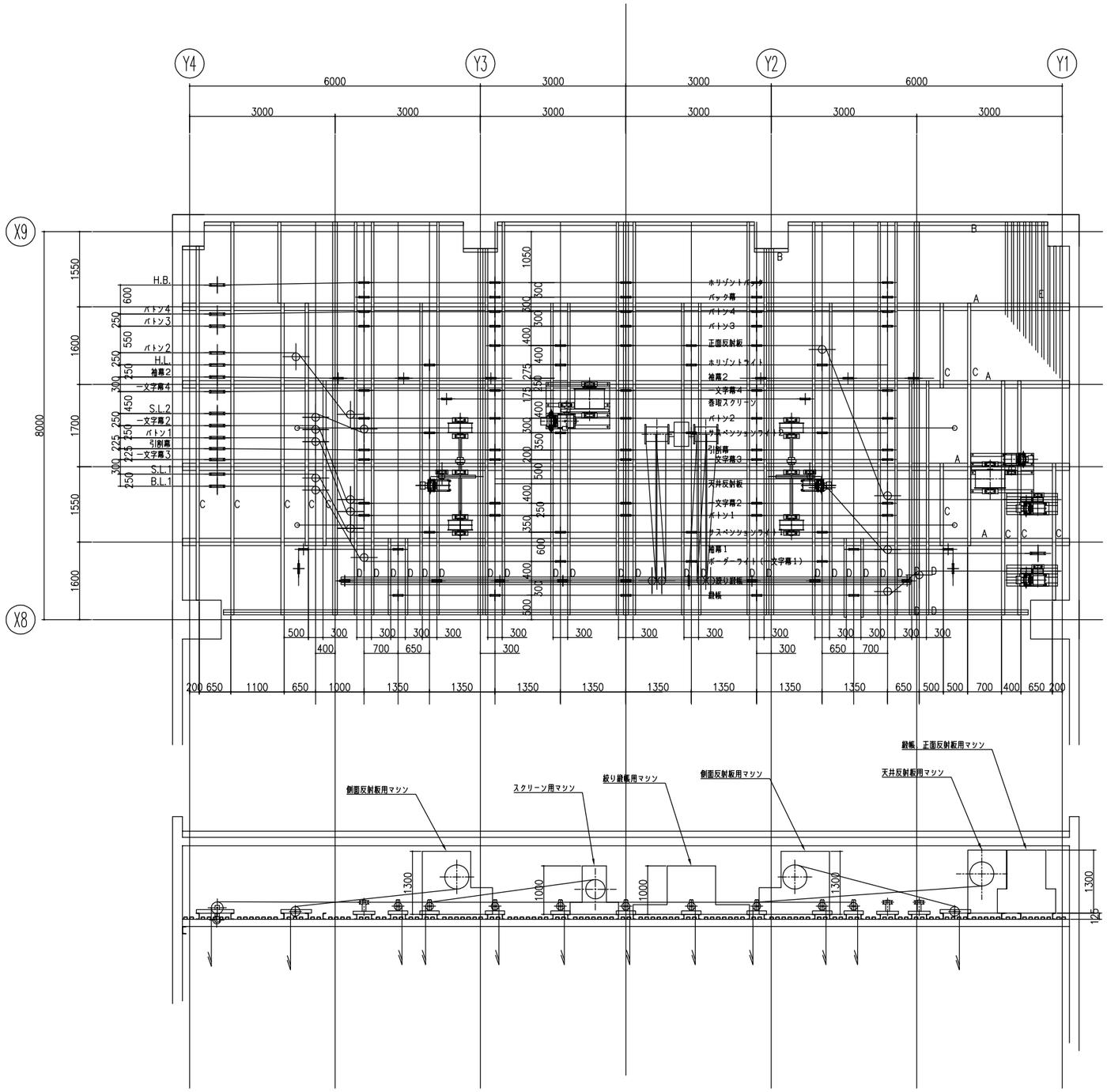
工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
橿原文化会館（小ホール）舞台吊物ワイヤロープ改修工事（第2期）	S=NTS						
舞台吊物機構 仕様書							



工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
種原文化会館（小ホール）舞台吊物ワイヤロープ改修工事（第2期）	1/50						
舞台吊物機構 断面図							



工事名・図面名	縮　尺		主　幹	係　長	設　計	係　員	番　号
種原文化会館（小ホール）舞台吊物ワイヤロープ改修工事（第2期）	1/50						
舞台吊物機構　平面図							



記号	材料メンバー
A	2C 150×75×6.5
B	C 150×75×6.5
C	C125×65×6
D	C100×50×5
E	C75×45×20×2.3 @150

工事名・図面名	縮尺		主幹	係長	設計	係員	番号
種原文化会館（小ホール）舞台吊物ワイヤロープ改修工事（第2期）	1/50						
舞台吊物機構 すのこ図							